

畜産IoTサービス拡大



伊藤忠飼料

伊藤忠飼料（東京都江東区、藤嶋昭夫社長、03・5626・3200）が、畜産向けIoT（モノのインターネット）サービスを相次いで市場投入する。すでに養牛分野で開始したのに続き、今秋から養鶏分野向けサービスも始める計画。NTTテクノクロス（東京都港区）と共同開発したスマートフォンによる豚の体重推測サービスでは、2019年春の発売に向け専用端末を開発する。



豚の体重をスマホで測定

畜産向けのIoTと共同開発した豚の「デジタル目勘」を提

サービスのうち、養豚 体重を推測するアプリ。供。スマートフォンではNTTテクノクロスサービスなどで撮影した豚の画像

から体重を推測する技術「デジタル目勘」を提。養牛分野では養牛監視サービスを手がけるCKDと連携し、鶏舎に各種IoT機器を取り付けて鶏舎内の環境では畜産家の管理負担を減らすIoT化の提案を通じて課題解決に

専用端末活用
管理負担を軽減

せた。実際の体重との誤差は現在約5%で、データ量が増えれば誤差は縮まる。19年春にはスマホのアンドロイド端末を内蔵し、赤外線センサーと握りが付いた専用端末も開発する予定だ。

を基に行動様式を「採食」「飲水」「発情」など8通りに分類。病気を早期に見つけられることもできる。今秋から開始するスマート養鶏サービスでは、PSソリューション（東京都港区）は、国内の畜産業は1戸当たりの飼育頭数が年々増える一方、中小規模の農家が多い。同社

を遠隔地から行い、養鶏農家の管理作業を省力化し、生産性を向上できる。

さらにこれまで経験と勘に頼っていた温度・空調管理を飼養成績と連動して記録して人工知能（AI）で分析。養鶏農家の知見や飼養技術を見える化し、知識やノウハウの